

令和7年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立椿小学校		NO. 1		
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
学力向上×ICT活用	1.授業改善 ・授業でICTを活用 (アンケート「タブレットを学習で使うのは楽しい」90%以上) ・学力調査、みえスタの分析と授業改善への活用 (全国県比の平均+5) ・校区研究授業に参加し授業改善を推進 2.基礎学力の向上 ・構タイム(4～6年生:5回実施) ・家庭学習の充実(UP5の活用、校区学習強化週間年3回)	○授業でICTを活用し、子ども主体の授業を目指す。「タブレットを学習で使うのは楽しい」91.6%。 ○学力調査国算理全国平均+5以上、みえスタ5年国算平均+5以上だった。 ▲5年理と4年の結果は県平均と同程度または下回った。 ○校区で行われた研究授業に積極的に参加したり、普段の授業を見学したりして、子ども主体の授業改善を推進することができた。 ○構タイムは計画通り実施(12月末4回実施)できている。また、ツバキクエストの取組を新たに初めて基礎学力の向上を図った。 ○家庭学習強化週間は、読書時間1学期81.6%→2学期73.7%と減少したが、学習時間1学期76.9%→2学期81.0%と増加した。取組を継続することで意識を高めることができた。	・みえスタの対策としては、 ①過去の問題をし、問題の問われ方、解答の仕方に慣れておく。 ②該当学年の得意不得意を担当が見極め、前学年のうちに不得意な部分の問題をたくさんこなしておく。また、直前には得意な分野を伸ばす問題をこなしておく。 ③理科は特にその単元が終わると、触れないことが多いので、忘れた頃に宿題などで問題に触れさせる。 以上の3点を心がけて取り組んでいく。 他の成果が出ているものについては、継続して取り組んでいく。 ・書く活動としては、低学年では「読む・書くシート」をチャレンジタイムに継続的に行っている。また、ただ書くだけでなく一文字一文字のバランスについても丁寧に指導している。高学年では「よむYOMUワークシート」を活用している。 ・黒板をノートに写すことや、PMCCカード・感想文等、書く活動は今後も続けていく。	○ツバキクエストの取組で基礎学力が向上して良かった。紹介する場所がほしいです。(ツバキクエストのPR)PTA・学校運営協議会 ○授業でのICT活用、すごく分かりやすく、子どもたちも楽しく学べるのでますますの活用を。 ○構タイムは継続してください。 ○学調・みえスタはとても素晴らしい結果だと思います。 ○家庭での指導も大切です。先生方の指導が、保護者の方に伝わるように願います。 ○▲ICTの活用で広く興味を持ち、楽しく取り組んでいる姿がある一方で、文字を書く活動が疎かにされがちな懸念がある。「不易流行」の教育を大切にしていきたい。 ▲ICTで学習意欲の向上は理解できるが、長時間の利用は疑問。最近、一部の国では、タブレットなどの電子機器から離れ手書きによる学習に変更している。
	長期欠席対策	1.新たな長期欠席児童を生まない支援の取組 ・欠席理由の把握 ・児童理解支援シートを作成し、校区で情報共有 2.SCや関係機関等との連携 ・相談室の整備、活用 ・特別支援コーディネーター、SCによる児童観察	○オンラインをつないで学校とのつながりをもてるようにした。定期的に家庭訪問をするようにし、本人の様子を確認したり思いを聞いたりした。 ○新たに「教育相談アンケート」を実施した。本人の悩みや困り感をいち早く把握し、担任以外でも話を聞き、すぐに情報共有し、対応する体制を作った。 ○相談室を整備したため、すぐに教室に入ることが難しい児童の気持ちを整える場として使用できた。また、SC以外でも児童の相談に乗る場としても活用できた。 ○特支COとSCが連携し、児童観察を定期的に行うことで、専門的な視点の助言を支援に活かすことができた。	・定期的に家庭訪問をし、コミュニケーションをとるようにしたことで、学校へ行ってみようという思いをもたせるきっかけになった。長期欠席の子どもに思いを寄り添い、保護者や関係機関と連携をしていくことが大切である。 ・早期に対応できるように、今後も毎朝の心の天気や児童の心情を掴み、悪天候の児童については注意を払うようにしていく。 ・教育相談を実施したことで、児童の困り感を把握して対応することができたので、今後も実施を継続していく。 ・非認知能力の育成の取り組みを強化することで、未然防止に努める。
非認知能力育成	1.非認知能力育成を目指して校区で実践 ・非認知能力アンケートの実施(年3回)アンケートの否定的回答の減少 ・ポジティブメッセージカードの取組 ・非認知能力絵本の読み聞かせ(年5回以上) 2.教育活動の充実 ・異年齢交流の実施(班遊び・掃除) ・児童会主催による集会(年6回)	○非認知能力アンケートを5・9・11月に実施。やり抜く力や社会性に課題はあるが、9月から11月にかけて否定的回答は減少した。 ○ポジティブメッセージカードの取組は年間を通して行った。4つの観点について全員にポジティブなメッセージを送ることを目標に取り組んだが、意識して、友達の言動を見るようになり、友達の今まで意識しなかった言動を認めることができる子どもが増えた。 ○わくわくタイムによる縦割り班遊びを年間を通して行った。低学年の子どもへの優しい接し方などが身についた。 ○児童会主催の集会を年6回実施することができた。児童会の子どもは、集会を企画、運営することで、他者が楽しんでくれることにやりがいを感じていた。 ▲一方、縦割り班遊びや集会が「楽しい」と感じる児童が5ポイントほど減ってしまった。	・学校行事と非認知能力育成の結びつけて企画していく。 ・中高学年だけではなく、低学年も含めたPMCCカードの取組 ・縦割り班活動については、学校の人数が減ってきたこともあり、6年生の負担がさらに大きくなるのが予想される。班の数を減らし、5年生と協力し合えるような体制を作っていく、無理のない活動にしていきたい。 ・集会については、前期の3回は、児童会が内容を自由に考えることができたが、後期の3回はご自慢集会と大縄集会が決まっており、企画運営が自由にできづかった。ご自慢集会と大縄集会の在り方を再考していく。 ・縦割りや集会が楽しいと答えた児童は91.6%はいるので、今後も活動内容の工夫に取り組んでいく。	○非認知能力を一人ひとりの子どもが伸ばしてほしい。 ○わくわくタイムはとても良い取組である。 ○「生きる力」「自己肯定感」を高めることはとても大切なことだと思います。がんばって努力しても勉強が苦手な子、運動が苦手な子、不器用な子もいると思います。小さなことで一人ひとりの良い面を見つけて声に出して褒めてあげてほしいです。保護者の方にもお願いしたい。 ○学力の向上につながるはずですし、学校生活、社会生活においても重要である。 ▲5ポイント減った理由は放置せず、非認知能力育成につなげてほしい。
地域連携	1.課題についての情報共有 ・学校運営協議会年6回開催(第4回:中学校区拡大大学校運営委員会) ・教育活動の情報発信(学校だより年30号) 2.地域教材と人材の活用 ・学習、読み聞かせボランティア ・外部講師の活用(各学年3回、年18回以上)	○学校運営協議会12月末5回開催(第4回は中学校区で実施)。学校だより24号まで発行済み。保護者アンケート「各種お便り・メール配信等を通して教育方針や活動内容・緊急連絡を適切に伝えているか」肯定的回答94.6%。 ○外部講師の活用は、各学年8回以上学校全体で58回実施済み。その他に、お茶摘みや鈴鹿PAでの起震車体験、校区町探検や施設見学等、各学年に応じた地域教材活用授業を多数実施。 ○お話し会や学年行事、家庭授業等で地域ボランティアを活用。	・学校だよりで、学校の教育活動について啓発していく。今後はメール配信を検討し、ペーパーレス化を図っていく。地域には月1回の回覧で学校だよりを回覧していく。 ・学校ボランティアについては、地域コーディネーターと連携して、ボランティアの人材確保に努めていく。 ・学校運営協議会で、引き続き学校での問題事項について議論を深め、解決が必要な課題については、協力をお願いしていく。 ・「あいさつ」については、学校での取組を学校だよりで掲載し、家庭での協力も呼びかけていく。今後活用を進めていく。	○継続してボランティアの活用、外部講師活用を。子どもたちも楽しいと思う。 ○地域ボランティアのメンバーが増えるようにどのように声掛けをしたらよいかみんなアイデアを出していければと思います。 ○学校だよりは学校の外への発信はいいですね。地域の回覧板で私たちが知る事が重要。運営協議会は、地域の方との情報交換を。 ▲学校運営協議会は微力で申し訳ないですが、まとまると「力」になりますので、学校側で困った点は申し出願います。協力して参ります。 ▲学校運営協議会の場で話題となった子どもたちの課題(例:あいさつ)は、学校だより等で啓発していただきたい。
学校における働き方改革	1.会議の効率化と時間短縮 ・会議資料のデータ化 ・放課後開催の60分以内の会議(70%以上) 2.時間外労働時間の縮減 ・定時退校日の設定(退校率80%以上) ・時間外労働時間月平均20時間以下	○昨年度の資料をクラウドに保存して利用しやすいようにしている。 ○放課後開催の60分以内の会議(12月末87.5%) ○定時退校日の退校率(12月末88%) ▲時間外労働時間月平均(12月末24.6時間) ▲校務DXの積極的な導入	・提案内容については、部会や企画委員会で検討し、会議は1時間で終了できるように今後も意識して取り組んでいく。 ・定時退校日の退校率は目標値を達成できたため、今後も適切な日を設定できるようにしていく。また、労働時間を圧迫している業務内容の見直しと職員の意識改革も並行して取り組み、時間外労働時間の縮減を図っていく。 ・昨年度の作成した資料を使いやすいように、今年度の担当で資料の整理を行って行く。	○会議は1時間以内がベストではあるが、熟議が必要なテーマは検討要。 ○短時間で会議を行うのは、事前の準備が重要になってくると思います。時間のやりくりは大変でしょうが。 ○働き方改革については、先生方の努力の賜物です。 ▲定時退校日は負担がかからないように徹底する。
特別人権教育	1.人権尊重を基盤に授業実践 ・いじめや差別を許さない生徒指導(ピンクシャツデー月1回、アンケート「いじめはいけない」100%) ・校区人権フォーラムに合わせた学習 ・研究授業の実施(全体研修会2回) 2.特別支援教育の推進 ・子どもと保護者に寄り添った支援会議の実施 ・個別の支援計画、指導計画の情報共有	○教育支援課や警察と連携しながら、いじめを未然に防止する取り組みを進めることができた。(いじめ防止教室、SNSトラブル防止教室、非行防止教室など) ○毎月行っているピンクシャツデーに児童が主体的に取り組むことができるように、児童会からピンクシャツデーの意義を呼びかけて参加を促すなど、児童会と連携しながら進めることができた。 ▲学校アンケート「いじめが起こらないように、気をつけていますか」の肯定的な回答率90.3% ○子どもたちも巻き込んだピンクシャツ運動を実施できた。意識してピンクシャツを着てきている児童も多かった。 ○本校の人権主題「自他を認め、安心して学び合えるなかまづくり」に沿った研究授業を年間2本実施することができた。 ○人権フォーラムでは日頃の子どもの生活の中で戸惑う場面にフォーカスして取り組んだ。近親者が持つ偏見にどう行動すると良いかに戸惑っている子もいたが、友だちの意見を聞いて考える機会となっていた。 ○学期に一回保護者との支援会議を実施した。また、個別の支援計画・指導計画を学期ごとに作成し、評価・見直しを行って適切な支援に努めた。	・人権フォーラムに参加した児童は当日まで準備をしたり、その後のふりかえりを書いたりして多くの学びを得たように思う。せっかくなので他学年に今回の学びの還元をしたり、5,6年でミニ人権フォーラムを開いてほしい。 ・いじめが起こらないように気をつける児童100%を目指して、子どもたちが「いじめはゆるさない」「いじめをなくす」という気持ちを持てるような授業づくりを進める。(警察、教育支援課との連携) ・いじめアンケートは年3回行っているが、日頃より児童の関心に注視し、気になることがあればその都度教育相談を行って対応していく。 ・ピンクシャツを着て来ている児童はまだ一部に限る。多くの児童が同じ志をもってこの取り組みに取り組んでいきたい。 ・ピンクシャツデーの取り組みを継続して行うとともに、主体的な参加を促すために、活動に参加する意義をつたえ続けていく。意義を持たせるために、ピンクシャツデーにいじめについての学習や、人権学習を取り入れ、ピンクシャツデーといじめや差別をなくしていくことを紐づけていく。	○ピンクシャツデーは継続すべきと思う。 ○いじめ防止やピンクシャツデーがみんなが理解し、取組ができています。これからもみんなと話し合いをして進めてください。 ○校内の報道を早期に的確に行っていたらいい結果、未然に防止できているんだと思う。 ○「いじめや差別をゆるさない生徒指導」のピンクシャツ運動は目に見える運動としてとてもよいと思います。 ○「あいさつ」もそうですが、家庭での話し合いや言葉がけもとても大切だと思います。学校・家庭・地域が一体となって指導・見守りができればと思います。 ▲支援会議等は学期ごとにすれば、いじめ等も減るのではないか。やはりすぐに行動を起こして、警察、教育支援課との連携が大事。タイムリーに。躊躇すると悪い方向へ。 ▲いじめ、差別は起こらないように周りの全員が気をつけるべき事。いじめがあった場合は、当事者以外の子どものために静観する無関心な子どもにならないよう、アンケートも充実させてほしい。 ▲差別に対する指導教育が弱いように感じた。子どもたちは本当に理解できているのか疑問に思えた。今後は、いじめのみならず差別についても教育を行っていただきたい。